

背景・目的

- 山梨県のきのこ栽培はシイタケが約6割を占めており、春から秋にかけて収穫量が減少
- こうした端境期に収穫できる新品種の導入を進め、きのこ栽培林家の経営基盤の強化を図ることが必要
- このため、美味しく人気は高いが流通量が少ないシロアラゲキクラゲ(“キクラゲ”の白色変種)とハタケシメジの簡易施設による栽培方法を確立



ハタケシメジ

- ・味・食感はホンシメジに似て、美味
- ・天然きのこ狩りの人気種
- ・本県での生産はなく、全国的にも生産量は少量



シロアラゲキクラゲ

- ・一般的なキクラゲ(正式名称:アラゲキクラゲ)と同様美味で食感良好
- ・白色で美しく、希少性が高い



研究内容

- 市販種菌を用い、温度特性、菌床の基材・栄養剤等を調査検討し、栽培林家で可能な栽培方法を研究する。

試験・研究項目	1年目	2年目	3年目
①きのこの栽培環境(温湿度)調査	↔		
②菌床培地の開発	↔		
③子実体原基の形成方法の検討		↔	
④簡易施設(ビニルハウス)での試験栽培	↔		→
⑤栽培マニュアルの作成			↔

期待される効果

- 多品種栽培による経営リスクの分散
- 簡易施設栽培による生産コストの軽減

**林業の成長産業化**  
栽培林家の所得の向上により、山村地域が活性化

